アジア国際学会２０１４
in Vietnam

第二回Asia Food Safety and Food Securityの国際学会が2014年8月15～18日、Vietnam Dong Nai 市のDong Nai University of Technologyにおいて開催された。この学会はバングラデッシュ・日本両国の学会が発展したもので、今回は20カ国130人の参加者があった。成田空港から6時間の旅で、現地時間の午後1時半にホーチミン空港に着いた（上）。立派であった。ホテルまでタクシーで五千円程度とのことで、機内でアテンダントに相談したところ信用できるタクシーを教えてもらった。この空港の2階に待機しているタクシーはメーター制であると教えてもらいそのとおりであった。

長時間のドライブでようやく到着したのがこのDiamond Resortホテルで、中庭には独立したコテージが数棟あった。後で分かったが大阪からのグループはこのコテージ（右）に宿泊していた。運転手もここまで来るのに数回は道を聞きながらのドライブであった。

ND RESORT

★★

ĐIỂM TÂM SÁNG

Breakfast

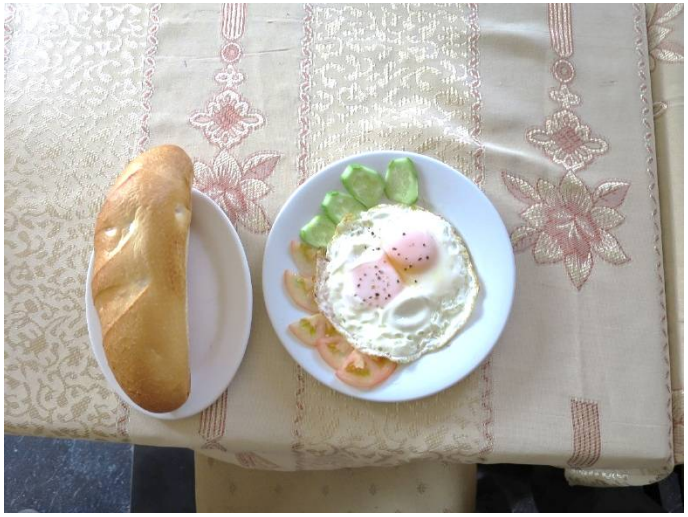
• BÁNH MÌ-ỐP LA	15.000 VNĐ
Bread With Egg	15.000 VNĐ
• BÒ LÚC LẮC	60.000 VNĐ
Beef Fried Chopped Steaks	60.000 VNĐ
• BÒ PITTECH	60.000 VNĐ
BeefSteak	60.000 VNĐ
• NUI XÀO BÒ	30.000 VNĐ
Noodle Sauteed With Beef	30.000 VNĐ
• MÌ XÀO BÒ	30.000 VNĐ
Pasta Sauteed With Beef	30.000 VNĐ

朝食のメニューと宿泊した部屋です。貨幣単位はドンで100円が20,000ドン。普通は下三桁のゼロを省き20ドンのように表現するらしい。朝食は150円くらい。ベットに紙幣を並べて勉強中ですが換算が面倒くさいので困る。TVではNHKの「おしん」を放映していた。

ホテル近くに市場に出向いた。ベトナム語はまったく分からないので全て推測です。英語か仏語が少書いてあればと思ったのですがまったくなし。写真右は吹き抜けの喫茶店のようでした。コーヒーを飲んでいる若者が見えます。

サイゴン川です。旅行すると河が見たいとの思いにかられます。ホテルに自転車があるとのことでそれ
ホテル近くを回り写真を撮りました。オランダは自転車が自由に使えパーキング場に乗り捨てできるの
大変便利ですがこれとは違います。

トナムに行ったらフォーを食べろと本に書いてあったので・・・。街の屋台みたいなところでわかない物を
べた（中）。50,000ドン払い40,000の釣りをもらい食べていたら、オバさんが先ほど払った50,000ドンを出
てムニャムニャ言い出し、私からさらに20,000ドンを取りあげ、ハンモックで鼻歌を歌いとてもハッピー。



ホテルの朝食です。左は少し高いもので　中、右は15,000ドンのRice soup with meatとBread with meat。初日はNoodle with meatを注文したらインスタントラーメンにひき肉が少しのって出てきた。実直そうに見えるウエーターが両手でラーメン・ドンブリを大事そうに持ってきてくれたのに感激。その感激のためかうまかった。

ホテル近くの市場内と路上でのお店です。

床屋さんを見つけました（左）。そして道路わきには香炉台と花がいたる所にありました。ホテルのフロン
脇にもあり、どうも日本の招き猫のような役割をしているらしいとベトナム語の分からない日本人の勝
手な推測でした。庶民の普通の生活を見るのが旅の楽しみでもあります。

市街風景です。バイクが多いのが目立ちます。街はきれいで生ごみ等は見られませんでした。スクーター
が多く交通ルールも守っているように見えます。穏やかな国民性から来るものでしょう。

学会場のDong Nai University of Technologyです。これまでに経験した学会の中でも最も熱烈歓迎ムードのものでした。準備に一生懸命であったろうと熱いものを感じました。大切なことです。

正門を入ると美人さんたちが両側に並び笑顔で歓迎してくれました。こちらの方が戸惑いました。
建物が新しくきれいでこれから優秀な研究者・社会人を輩出する予感のする大学でした。

正門から入ると中庭に出ます（左）。そして学生寮（右）です。ダッカ大の皆さんはこのドームに宿泊していました。無料開放です。一部屋に二つのベットがありアーサンもこの寮（右角）の部屋に宿泊。

大学構内で出会ったヤモリ？だと思いますがかわいい目をしています。右の女性はアーサン教授の研究室のスタッフです。名前は忘れましたが知っているかといわれたので「勿論」と言いましたが？ダッカ大学で数回あっています。

ICFMH Poster Prize Competition Assessment Sheet

Asian Food Safety and Security Association (AFSA) Conferences on Food Safety and Food Security

August 15-17, 2014

Venue: Dong Nai University of Technology

Poster number: P-34 35

Name of the presenter: Aly Fawas El Sheikha

Title of the poster: Novel Fingerprinting of Fruits by PCR-DGGE: An Application on Shea Tree Fruits

Assessor:

Assessment Criteria	Total marks	Scored marks
Presentation and organisation	20	20
Originality of the work	20	20
Technical and language soundness	20	20
Knowledge of the presenter	20	20
Importance of the research outcome	20	20
Total	100	100

Selection criteria for the posters to be included in the competition:

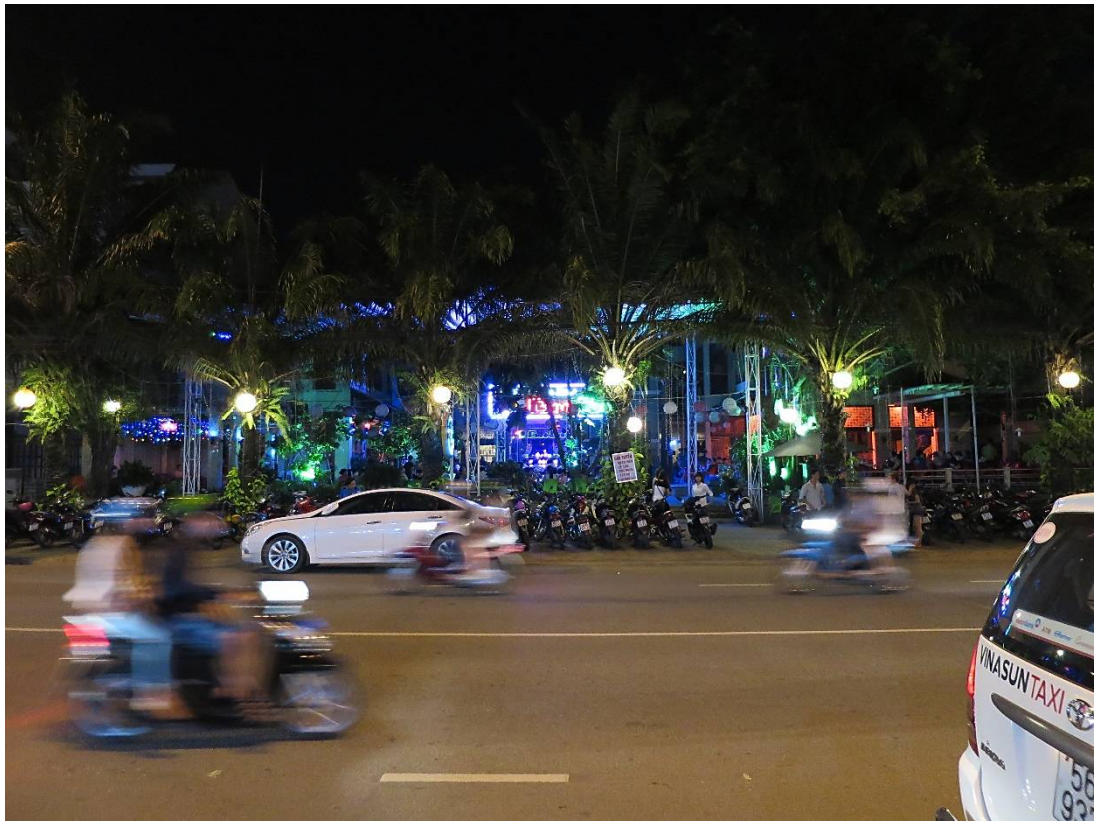
1- Young and emerging scientist (current studying or graduated during last 1-2 years)
2- Presenting original research work (concept posters will not be included)

開会前のOrganizer Assemble（左）。次期会長のRamesh C. Rayの挨拶。隣が事務局のBari, そして植村氏。この会で優秀若手研究者の選出がLarry Beuchat（中）より提案された。具体的な選出方法について「Scoring sheet」を準備して公正にやったほうがいいと提案しそれに決定した。NZ研究者は翌日にはシートを作ってくれた（右）。

学会が始まる前の写真です（左）。向こうに立っているのは植村先生（左奥）でこの学会の創出に努力した人で、いまTVインタビューを受けているところです。右はDr. Larry Beuchatで彼の所属する(IUMS)の組織について説明をしているところです。今回、彼ともう一人ニュージーランド研究者の三人で若手優秀研究者による研究発表の選考をしました（後述）。

この建物（左）は学会での各種パーテー、昼食、若手研究者の表彰式等々を行いました。そして1Fの内部で、昼食に集まった研究者たちで賑わいました（右）。バイキングスタイルで、高級ホテルのような雰囲気でした。全てが新しく一生懸命さが伝わり感激しました。ベトナムに一層の祝福を！

Diamond Resortホテル泊の日本人グループが、外で何か食べたいとのことになり大学のベトナム人をガイドに街に繰り出しました。学生の好むところらしく、若者で満員でしたが鍋物をだしにしてビールをついに飲むことができました。奥では学生グループのコンパのようでした。日本人の紹介ですが片山先生（大阪府立大名誉教授、撮影中）、その隣は宮本先生（大阪青山大教授）、村上先生（広島工業大準教授、黒いワンピースの女性）、一人おいて森岡先生（和歌山県立医科大学教授）、空席は佐々木の席で私の左側は片山先生の奥様で大阪市立大名誉教授です。次回の学会はインドです。



手前左が麺だと思いましたが。学生が多く話し声が高くて互いの会話が聞き取れないほどでした。高齢者にはこたえました。この通りは繁華街のようでお向かいにも派手な音楽、ネオンが灯っていました。訪問前のベトナムの印象と全く異なっていました。

学会場は大学の図書館2Fを使い3会場を設定し、現地の新商品の展示、試飲、受付などは1Fでした。
右の写真は展示場での日本人の合同写真です。

同胞であるダッカ大学のホー教授（左）の発表で座長は田中先生です。右は次期会長であるインドのDr
Ramesh C. Rayの次期会長としてのアドレスです。8月号の「ダイアモンド」に「世界でもアジアでも劣等生
として日本の英語力」が掲載されています。TOEICスコアが48ヶ国中、バングラデッシュが1位、インドが
2位で、日本は40位とのこと。学会に出てみればそのことがよく分かります。彼らは訛りのある英語を使
うがDiscussionにおいてはNativeです。

学会最終日のClosing Ceremonyです。優秀若手研究者として台湾のSudarut Kaokaengさんが選出され
500ユーロの賞金が授与されました（左）。若手にはこれが励みになると思います。そして大学生バンド
よる歌・ダンスのパーフォーマンスです（右）。

ダッカ 大学のアーサン教授によるギターと歌のパーフォーマンス。彼は弘前大学に留学していた時からギターを弾くことは知っていたがさすがです。彼の長兄は「シタール」のプロ演奏者でダッカで一度演奏を聞く機会がありました。

月18日、学会が「Technical Tour to visit industries at Dong Nai Industrial Zone」を計画してくれバス二台
で訪問しました。ランの人工栽培（無菌培養）を見せてもらい、場内をバス移動するほどの広さであった。
このランは輸出産業の一つであるとのことです。いろいろの種類がありましたし無菌培養もしていました

メロン栽培（左）とキノコ栽培（右）のハウスである。このキノコ成分を使用しての研究が行われているとのことで、私も抗がん成分の研究をしていると話したところ共同研究をと言われたが・・・。外国人はそこまでは言うが「その後は続かない」と思っていたところメールが届きました。共同研究のプロポーズですちょうどその時にバングラデッシュの大学からも共同研究のメールが届きベトナム、バングラデッシュ、日本間でのプロジェクトの考えを伝えたところです。どうなるか Wait and See!

8月18日のバスツアーの後、ホーチミン空港を利用する連中は皆ホーチミン市にホテルをとった。「QUE HUONG」ホテルには私と農研機構（農水省）の木嶋先生、そしてダッカ大学の連中が投宿。近くに市場があるとのことで木嶋先生と買い物に。市場内で、しつこく日本語での売りこみにつきまとわれ、「要らない」と英語で返事をしたら「あんたは日本人？」と。面倒なので「Japanese-American」だと答えたらようやく開放された。ダッカ大学の連中もこの市場にいてピーナツの計り買いの最中であった。木嶋先生は来週は韓国に学会で行くとのことであった。

《帰りの機内で》

ホーチミン空港を深夜の0時に出発した。窓側は若いお嬢さんの席であった。離陸後
彼女がアテンダントにヘッドホンを希望したが、騒音もあり疎通がうまくいかない。
通路側の私がアッテンダントにその意を伝え、間もなくヘッドホンを持ってきてくれた。

その女性は私の横顔をチラチラと見て、遠慮がちに話しかけてきた。
「アノー、日本語がたいへん上手ですけど、どこで日本語を勉強されたのでしょうか？」。
「ん・・・？　んんん・・・・？　アノー　私は日本人ですけども」。

１０日ほどベトナムにいたが、その間にベトナム人と間違われるほどに日焼けしたのか
ナーと思うやら、彼女もそそっかしいナーと思うやらで・・・一気に疲れてしまった。２年後
はインドが当番なので、余り日焼けしないように注意しながらインドには行ってみたい。